

日銀マイナス金利解除

アベノミクス転換点 異次元緩和破たん



参院予算委員会で答弁する日銀の植田和男総裁(右)。左下は岸田文雄相
相=13日午後、国会内

日銀は19日、前日に続き、金融政策決定会合を開き、大規模金融緩和策の一環として実施してきたマイナス2%の物価上昇目標の持続的・安定的な実現が見通せたと判断しました。

◆関連⑥面

しかし物価上昇が続く中で実質賃金は2カ月連続で低下しており、「好循環」

は国民生活に及んでしません。

ミクス(安倍晋三政権の経

済政策)の「第1の矢」として始まった「異次元金融緩和」は、11年の失敗と混迷の末に大きな転換点を迎えた。

年2月以来、17年ぶり。長期金利を0%程度に誘導する長短金利操作(YCC)も撤廃します。アベノ

イールドカーブコントロールも撤廃します。

アベノミクスの解除を決めました。賃金と物価がともに上昇する「好循環」が強まり、

マイナス金利政策 民間の金融機関が日銀に預けた当座預金の一部の金利をマイナスにする政策で、2016年2月に導入しました。

金融機関は余ったお金を日銀に預けると金利(手数料)を払わなければならず、企業や個人への貸し出しを促して景気を刺激する効果を狙つたものの、实体经济が低迷する下では貸し出しは活発化しませんでした。

日銀はマイナス0・1%の金利を適用しました。市場金利の低下に伴う損失を銀行が顧客にしわ寄せするなど、弊害ばかりが強くあらわれていました。

株価を事業上下支えられてきた上場投資信託(ETP)のほか、不動産投資信託(REIT)の新規買い入れも終了します。社債などの購入は段階的に減らし、1年後をめどに終えます。

今後の金融政策運営を巡り、緩和的金利環境が継続する」と表明。現金と当座預金残高を合わせたマネタリーベース(資本)を入れる当座預金の一部にマ金供給量)を拡大するとい

用していました。この適用金利を0・1%へ引き上げ、短期金利(無担保コール翌日物レート)を「0~0・1%程度」に誘導します。16年9月から続いているYCCは撤廃しますが、長期金利の急騰(債券価格の急落)を避けるため、大量の国債買い入れは当面継続。買い入れ規模は現在と同様の月間6兆円程度となります。

金融機関が日銀に預けた当座預金の一部にマ金供給量)を拡大するとい